



新潟県ソウル事務所発 韓国レポート



2021.3.25

<第 33 回レポート>

【ソウル事務所帰任記】新型コロナウイルス感染症対策のため、半年経っても近いのに遠い国！

ソウル事務所に駐在していた所長・次長の日本人職員は、このたび引き揚げることとなりました。昨年7月中旬に韓国へ入国し、2週間の隔離生活を経て着任しましたが、その後も新型コロナウイルス感染症は収束せず、水際措置が強化された中で帰国※1した状況を紹介します。

まずは事前準備です。出国前72時間以内の検査証明の取得が必要なため、帰国2日前、ソウル市内の病院でPCR検査を受検し、翌日陰性の結果を聞き、証明書を受けました(費用約14,000円)。

帰国当日は、ソウル駅から空港鉄道を利用し、仁川国際空港へ向かいました。鉄道も空港出発ロビーも免税店も、どこも閑散としており、寂しい限りです。現在、仁川からは成田のほか関西等も含め1日数便が運航しているようです。私が搭乗した飛行機の乗客は50～60人程度でした。

2時間ほどで成田空港へ到着です。入国時には最初に検疫があり、順番に唾液採取による抗原検査が行われ、結果が出るまで待機します(検査会場には唾液の分泌を促す梅干しやレモンの写真が貼ってあります)。当日は1時間ほどで結果(陰性です！)が出ました。その後、入国審査、税関審査を経て、無事に入国はできました。成田空港も当然ながら閑散としていました。

ただし、その後も14日間は自宅又は宿泊場所で待機し他者との接触を行わず、公共交通機関も使用しないこととされています※2。このため、私は都内の1泊6,000円ほどの短期賃貸アパートで過ごしました。もともとは外国人観光客向けだったようですが、コロナ禍の現在、私のような海外帰国者向けに、空港からアパートまでの送迎もセットにして貸し出しています。

期間中は厚生労働省から毎日、スマホのアプリを通じて発熱やコロナ症状の有無について確認が来るので回答していました。また、接触確認アプリ(COCONA)を使用したり、地図アプリの機能を使って自身の位置情報を保存していました。

現状では海外との往来は極めて困難な状態ですが、仕方ありません。一日も早いコロナ収束を引き続き願いつつ、今後は新潟から韓国との交流に取り組んでいきたいと思えます。

※1 現在、外国人の新規入国は停止中で、日本人の帰国、在留資格を保持する外国人の再入国等に制限されています。

※2 韓国から入国の場合。変異ウイルス流行国からの場合、3日間検疫所が確保する施設に待機し再度検査が必要です。



(写真)仁川国際空港。密とは無縁の状況です。



(写真)機内の状況



(写真)成田空港にて検疫待ち



(写真)宿泊場所での待機